

INTERVIEW

外国人材を受け入れている農家へのインタビュー



令和6年3月

No.10

有限会社 サンフィールズ

経営概要

所在地：鹿児島県鹿屋市

従業員：役員2名、社員10名(うち技能実習生6名) ※令和6年1月現在

栽培品目：キャベツ(40ha)、ダイコン(20ha)、キュウリ(0.5ha)、ブロッコリー(1.5ha)等の契約栽培等(加工・業務用、青果用等)。作付面積合計約65ha



平成15年に就農、20年に同社を設立。平成23年に北海道の農場を購入し、平成28年に分社化するなど事業を拡大。令和元年、JICA(国際協力機構)の中小企業海外展開支援事業に採択されるなど、カンボジア農業の発展を支援。令和3年には、GLOBAL G・A・P認証を取得(キャベツ・大根)するなど、農業においても自然との共生、環境との調和に向けた取り組みを進めている。太陽と大地の喜びを伝えたい、自然が育む農業を通しての人々の喜びを創造したいという企業理念のもと事業を推進していく。

外国人材の受け入れについて

➤ 受け入れのきっかけを教えてください。

平成28年、業務用の契約栽培の増加など事業の繁忙に伴う労働力の確保のため、カンボジア人技能実習生3名の受入を開始しました。現在は、カンボジア人5名、ベトナム人1名の技能実習生を受入ています。

これまでカンボジアからの技能実習生を20名受け入れてきましたが、母国に帰って農業に従事している者は3名のみでした。このため、技能実習生の帰国後の受け皿を確保するために、JICAの中小企業海外展開支援事業に応募、採択され、現地の実態調査や減農薬・減化学肥料農法、グローバルギャップに関する講演などを行ってきました。

また、令和5年10月には、カンボジアの農地を3ha調達し、トマト、キュウリなどの栽培を開始するとともに収穫した野菜の試験販売も行いました。このような取り組みにより、カンボジアの農業の人材育成と雇用の確保につながればと思っています。

➤ 外国人材の仕事内容や受け入れの効果はありますか。

主に野菜の播種、収穫、出荷調製作業に従事してもらっています。

外国人は仕事をするときも明るく、非常にやる気があり、モチベーションも高いです。外国人を受け入れたことによって、労働生産性が上がるとともに、作業が効率的になり、生産面積を大幅に増やすことができました。規模拡大ができたのは、実習生のおかげと思っています。



キャベツの収穫作業

受け入れ農家としての取組(生活環境・コミュニケーション)

➤ 外国人材の生活環境などを教えてください。

近所の中古住宅を購入し改装した会社の寮に住んでいます。寮には、トイレ2箇所、台所2箇所、冷蔵庫4台、シャワー室2箇所を備えています。居住費は1万円/月、水道光熱費は1万円/月です。米は食べ放題としています。台所では、カンボジア語、ベトナム語、日本語と3か国語がありますが、日本語が共通語となるので、日本語の上達が早くなります。労働時間は、8時から17時です。休日(日曜日)には、近所にあるスーパーに当社から支給している自転車で買い物に行ったりして過ごしているようです。



ブロッコリー(収穫機一斉収穫)

➤受け入れるにあたって心掛けていることはありますか。

従業員の親睦を深めるため、定期的に社員旅行や食事会(年6回程度)を行っています。外国人は、楽しい、また行きたいなどとよく話しており、この行事を心待ちにしているようです。

また、外国人が働きやすいよう環境づくりに努めています。県の事業を活用し、寮にエアコン、冷蔵庫、洗濯機を整備するとともに、夏場の酷暑での屋外作業は熱中症等のリスクがあったことから、作業負荷軽減のため、空調服セットや遮光帽子を全従業員に支給しました。

この結果、もともと明るく元気な外国人のさらなるモチベーションの向上につながるとともに、熱中症などの事故防止にもつながりました。

外国人からは、「水分の過剰摂取や、体の疲れも少なくなり、快適に働くことができるようになった」と好評でした。

作業の指示はトラブルなく行うことができています。毎日コミュニケーションツールのメッセージで仕事内容の共有を日本語で行います。これに対して外国人は日本語で返答させるなどコミュニケーションを図りながら信頼関係を築いています。



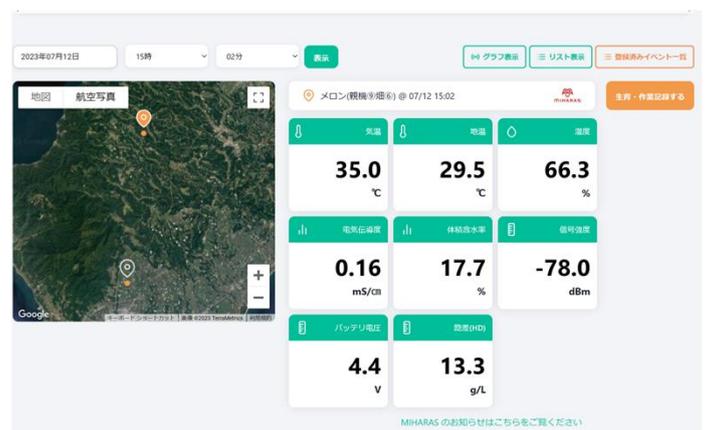
社員旅行 佐多岬

今後の事業展開

➤ 今後の展開や取組について教えてください。

現在、ハウスの気温、湿度等をデータ管理する機器や作業者に遠隔で指導することができるスマート農業の機器を導入しており、省力化・高品質生産等につながっています。

今後もスマート農業を導入し、高付加価値の作物を生産していくことができれば、10数名の従業員で、1人当たり2,000万円は稼ぐことが可能になると考えています。そのようになれば農業はどの産業にも負けない力強い産業になれると思います。



データ管理(土壌水分/EC/地温/気温/湿度)